憲法・いのち・くらし 心かよう府政を

民主府政の会代表委員
京都母親連絡会事務局長

衣笠（きぬがさ） 洋子（ようこ）

プロフィール●1949年大阪市生まれ。光華女子中・高等学校、大谷大学短期大学部卒。白い鳩保育園で保育士として勤務。京都私立保育所労働組合（現、福祉保育労組）北支部長。新婦人運動等を経て、91年より京都母親連絡会に勤務、95年より同事務局長、現在に至る。府民本位の新しい民主府政をつくる会代表委員。京都市北区在住。家族：夫、長男、長女。

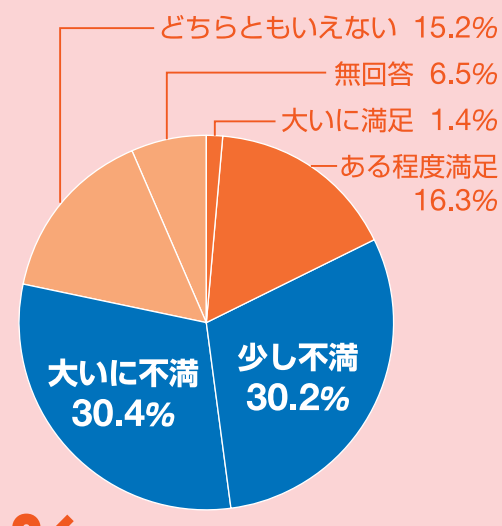
INNOVATION KYOTO

府政“かえたい”はみんなの思いです

衣笠さんとともに憲法を響かせる新しい京都を

- 毎日、毎日が不安。「府民の暮らし第一」で、府政を行ってください。
- 憲法９条は絶対守ってほしい。男の子をもつ母より。
- 子どもの医療費負担、高い国保料。京都に引っ越してきて驚くことがいっぱいです。

――民主府政の会に届いた府民のみなさんからの３万通をこえるアンケート回答。
今の府政への不満と切実な願いがビッシリと書き込まれています。
府民の声が生かされる府政の実現へ、府政の転換は“まったなし”の課題です。



60.6%の人が 今の府政に不満

府民アンケート（府民本位の新しい民主府政をつくる会）より

あ・た・た・か・い 女性知事誕生へ

京都府初

ごいっしょに力をあわせます

衣笠洋子さんは、１月６日、「民主府政の会のアンケートへの３万人以上の方からのお返事に、『助けて下さい』『子どもに高校をあきらめさせるなんて、言えません』『少子化をいうなら産める状況をつくって』というそれぞれの暮らしからの訴え、叫びが、ぎっしりとありました。私は、この３万人の声に押され、憲法が暮らしに生きる京都府政を何としてもつくっていきたいと決意いたしました」と、今年４月の府知事選挙への出馬を力強く表明されました。

日本共産党京都府会議員団は、京都府で初めての女性知事実現へ、全力をつくします。

写真：出馬表明する衣笠洋子さん

日本共産党
京都府会議員団

府議会報告

- 2006年2月1日号
- 発行／日本共産党府会議員団
- 発行責任者／桝井義行
- TEL.075-414-5566
  http://www.jcp-kyotofukai.gr.jp/

日本共産党京都府会議員団は、
次の見解を発表しました。

今の府政、このまま続けたら、暮らしも京都も大変です。

庶民大増税、あいつぐ医療と年金、介護保険制度の改悪など、小泉政治の国民への“痛み”押しつけの中、府民の生活はもう限界にきています。今こそ、地方自治体が悪政の防波堤の役割を果たすことが求められます。

ところが、山田知事は「小泉改革の…流れに、同感だ」（12月府議会）と述べ、「自助・自立」「受益と負担」の立場に立った福祉切り捨て、「官から民へ」と行政の公的責任を投げ捨てる安全軽視の姿勢を浮き彫りにしてきました。

福祉・医療　負担増を当然視

子どもの医療費助成の拡充を拒否

柏崎　ひろこさん（京都市左京区在住）

4ヵ月の女の子の母です。去年、「子どもの医療費助成の拡充を求める署名」を5000人集めて府議会に行きました。でも知事は冷たく拒否の答弁。京都では子ども4人に3人が「通院8000円まで自己負担」です。住んでいる市町村で格差があるなんて、不公平です。

洛東病院の廃止など福祉切り捨て。そして、府民の「負担増」を当然視する山田知事。12月府議会では、「介護を社会全体で支える趣旨から…高齢者の方も含めて負担がある」「（医療改悪では）給付と負担のバランスを考えるべき」と答えました。また、子どもの医療費助成の拡充も冷たく拒否しました。

経済　村田製作所１社に1.5億円

伝統産業予算は半減（2億円余）

谷口　浪一郎さん（伝統工芸士・京都染型協同組合理事）

国の伝統工芸士の認定を受けていても、今の知事はただガンバレと言うだけで、何の支援もしません。伝統産業予算も半分にバッサリ切り捨てたと聞きました。技術者が高齢化する中で後継者育成や税制面などの具体的支援が必要です。

山田知事は和装・伝統産業予算を２億円余に半減させる一方、もうけも体力もある企業には「企業誘致補助金」を１社最高20億円もだす制度を作り「勝ち組」応援。

また、「消費税を上げるなというのは幼稚な議論」と京都経済に打撃を与える消費税増税を当然視しました。

安全　“民間まかせ”で公的責任を放棄

振興局統廃合で安全守れず

奥野　重雄さん（舞鶴市字西方寺）

振興局の統合で土木事務所の体制が40名から６名の出張所となり、23号台風では対応が遅れ、尊い人命を失う大きな被害になりました。過疎地域にも府政の光を当てないと命と安全は守れません。

耐震強度偽装や加茂町の土壌汚染への対応など、「官から民へ」と経済効率を最優先し、府民の安全・安心を軽視する山田知事。マスコミも、「府民の安心・安全を脅かす危機を見通せず、見抜けず、見逃したでは、何の行政と言えようか」と痛烈に批判しました（05年12月16日「京都新聞」凡語）。

その上 大借金とムダづかいは温存

福祉削減など「行財政改革」をすすめる知事。しかし、大型公共事業など税金のムダづかいは温存。「改革」とは名ばかりで、府の借金は１兆3000億円（府民１人あたり52万円）と過去最高となりました。

継続されるムダな大型事業

- ムダと環境破壊――京都市内高速道路に百数十億円
- 過大な貿易量を見積もり――舞鶴港・和田ふ頭に496億円
- すでに破たんしたリゾート計画で――丹後大規模公園に43億円
- 過大な人口予測にもとづき――京丹波町・畑川ダムに77億円

“9条守る”と言わず、改憲の立場

改憲派

山田知事は議会で、「憲法９条のどこを守るのか。自衛権の解釈はいろいろある。そこを言わなければ答えられない」などと答弁。９条を守る気持ちはさらさらありません。そして、国際協調の立場で考えるのは当然とし、自民党などの改憲案と同様の立場に立っています。

▶▶▶府民が声をあげれば 府政が変わり、暮らしが変わります

暮らしと営業を冷たく切り捨て、一部の「勝ち組企業」を応援。そして福祉・医療・介護の負担増は「当然」とする一方、税金のムダづかいは温存する現知事。こんな府政が続けば大変です。

しかし、府民が声をあげれば府政は変わります。前知事が「絵に描いたモチ」「できもしないこと」といった子どもの医療費無料化は多くの市町村で広がり、追い詰められた府は制度を改善せざるを得ませんでした。

今こそ、草の根の力をあわせ、衣笠洋子さんで新しい府政を実現しようではありませんか。

2.16府民のつどいにぜひご参加下さい　2月16日(木)　午後６時開場　府立体育館（京都市北区）にて